

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



「菜の花」黄色じゅうたん

(3月17日 笠岡湾干拓地で撮影)

---

## さあ！おたすけ 祈る 動く つなぐ

---

おたすけ・お願いカード 集計：64,549枚

平成27年1月21日～2月20日

累計：735,576枚

一万人のおぢばがえり 集計：422人

平成27年2月1日～2月28日

累計：1,064人



春季大祭講話

日々の御用の中で、

しっかりと苦勞を！

世話人・島村廣義先生

1月21日、大教会春季大祭にご参拝くださった世話人・島村廣義先生は、「教祖年祭活動、仕上げの年のつとめ方」についてお話しくださいました。

まず、年祭活動の主旨を振り返り、教会のつとめとして、その第一はおつとめであること、おつとめをつとめる上で大切な心構えを順を追って述べられ、また、にをいがけ・おたすけをつとめる心構えとして、「自分ならではの「おたすけ」をテーマとして、経験談を織り交ぜながら、縷々お話しくださいました。講話の要旨は次の通り。

◎年祭活動の振り返り

教祖130年祭三年千日活動に当たり、成人した姿を教祖にご覧いただきたい上から、それぞれ、心定めをして、その活動に取り組んでいます。真柱様

は、その進めてきた活動、1・2年目を振り返り、その反省の上に立って、3年目、しっかりとその活動の仕上げをしてもらいたいと仰います。

『諭達第三号』を發布され、本部巡教をもって、直属教会巡教という形で、その主旨を徹底されました。

それぞれの直属教会では、それぞれ部内教会に所属するよ、ふ、ぶ、くを集めて、直属の責任において諭達の思召を徹底すべく、部内へ一斉巡教がなされました。

昨年は、部内一斉巡教の後を受けて、おちばから地域に出張られ、おちばから直接、よ、ふ、ぶ、く一人ひとりに『諭達第三号』の主旨を徹底すべく、「よ、ぶ、く、の集い」をつとめられました。

◎年祭の元一日

教祖は今も存命で、私たちの道の先頭に立って見守られるとともに、たすけの先頭に立って働かれています。

教祖の年祭は、故人の遺徳を偲んでつとめる年祭ではなく、明治20年陰暦正月26日の親心に如何にお応えするかということが教祖の年祭をつとめることの意味です。

世界一れつをたすけるために、一日

も早く陽気ぐらゐの世の状に立て替えてやりたいと思召す親心から、教祖は50年に亘ってひながたの道を遺され、たすけ一条の根本としておつとめを教えられました。

教祖の切迫する身上を台としておつとめを急ぎ込まれるとともに、あらゆる人間思案を断ち切つてひたすら親神様を信じ凭れ切つて通る神一条の道の通り方を仕込まれたものと思います。

年祭をつとめる根本は、子供の成人を急ぎ込まれる上から、教祖が定命を25年縮めて現身を隠されたことに由来しますが、現身を隠されることによつておつとめをつとめることに踏み切れなかつた原因を取り除かれた。

おつとめを、誰気兼ねすることなく十二分につとめられるようにされたこと、また、誰憚ることなく世界の人々に御教えを伝え広めるにをいがけ・おたすけが、布教ができるようにされたこと、その一語に尽きると思います。

現身を隠されると同時に、今から世界を駆け巡つてたすけする、今までとこれから先とどう違ってくるかしっかり見ていると仰せられて、

これまで子供にやりたいものもあつた。なれども、ようやらなん

だ。又々これから先だんぐに理が渡そう。(明20・2・18)

とて、広く一般におさづけの理を渡されるときにも、積極的な世界だすけの道、たすけ一条の道を促されました。それは、すべて、子供可愛いゆえの親心からであると教えられます。

●つとめに教えられる日々の心構え ◎人間思案を断ち切つて神一条に

教祖の身を案じ、教祖にご苦勞を掛けないで思召通りにおつとめをつとめたい上から、初代真柱様は、教祖に、教会本部の設立をお願いなされたわけ、教会本部の設立は、おつとめをつとめることを心定めて許されたものです。

おつとめをつとめることを心定めて教会本部が許され、教会本部のお許しとともに、それぞれの各地の教会も許されるようになった。おつとめをつとめることが教会の本来の御用。教会の第一のつとめは、おつとめをつとめることだと教えられます。

おつとめをつとめる上で大事な心構えは、このときに仕込まれる、神一条、親神様にしっかりと凭れ切つてつとめることだと思ひます。

『おふでさき』にも、

しんちつに心いさんでしやんして

神にもたれてよふきづとめを 四 49

これからハ心しいかりいれかへて

神にもたれてよふきづとめを 十三 10

これから八月日ゆう事なに事も

そむかんよふに神にもたれよ 十三 68

したるなら神のほふにもしんちつに

たしかひきうけはたらきをする 十三 69

と述べられていますが、おつとめをつとめる私たちのその心は、人間思案を一切捨てて一条心で親神様のお心にお凭れすること、お教え通り思召のままにおつとめをつとめられれば、親神様は確かに引き受けられ、心通り自由自在の御守護を約束されていると思います。

ほこりを払い澄み切った一条心になつて親神様にお凭れするということが何よりも大切だと思います。

◎一手一つに心を揃える

次に大事なことは、おつとめをつとめる者が、皆一手一つに心を揃えることだと思ひます。

明治29年、内務省秘密訓令に関わつて、三味線・胡弓が琵琶・八雲琴に改められ、昭和11年・教祖50年祭の節と

もに、元に戻されました。

その機会に、本部のご婦人を集められ、毎昼の1時間、ご母堂様・中山玉千代様・永尾よしえ様の3人から女鳴り物を勉強されました。ご母堂様は

「昔、習ったときは、いつ土足の人が

上がり込んでくるか分からないので、

皆々、タスキ掛けで稽古した。今日、

こうして昼日中、誰にも文句言われず、

教祖もご苦労されて、辛苦して付けられた手を移してもらえるのやから結構

や。しつかり稽古さしてもらわないか

んで。」と、また、鳴り物の勉強をする

心掛けとして「三味線や琴という

で、ただ弾くだけでは何にもならん。

一手一つの心になつて九つの鳴り物の

調子を揃え、心の調子も一つにつとめ

る、いかな身上も事情もおたすけいた

だく根本のおつとめをつとめるのである

から、銘々の心のほこりを払うて、

親神様に凭れる心になつてつとめさせ

てもらわないかん。」と、懇々と仕込

まれたと、祖母からよく聞きました。

・一手一つの心を培う手合わせ

私は、90年祭の1年前に会長に就任しましたが、会長になって間無しの頃に、故山澤秀信世話人先生から、月次

祭・大祭のおつとめそのまのお役で

月次祭までに皆で手合わせをするよう

にと仕込まれました。

お役は1ヶ月前に発表し、それぞれ

の立場・持場の役割をしっかりと勉強し

て、月次祭の前晩、そのお役で座りづ

とめから十二下りまできつちりと手合

わせをします。

そのときに、お互いに癖性分をいろ

いろ持ち合わせていますから、注意し

合つて悪いところは直し、いろいろと

調子を合わせ、要は、一手一つの心を

培います。

私が会長になつたのは30歳でしたの

で、この手合わせに無断で出てこない

人は役を全部外しました。

「若い会長が何をするか」と、元老

の役員さんが怒りましたが、欠席の理

由を確かめると自分の勝手からとのこ

とで、それは一手一つの心を乱すから

出てもらつては困るといふことで、役

を外し、その場はお参拝だけでつとめ

てくれました。

明るく月から、皆、全員、揃うよう

になりましたが、今は、理由がはつき

りし会長に届け出れば欠席は認めてい

ます。

その当時の山澤先生から教えられた

ことは、一手一つです。

だから、手合わせに揃わないという

のは、おかしな話です。自分のお役

を自覚した上で、それぞれ御用をつと

めることが大切です。

上手・下手とか、また、前の日に手

合わせしたから間違わないかという

そうでもない、これは致し方ない、そ

のことについては何も言いませんが、

前の日に「心を揃えるために集まる」

ことをできなかった人は遠慮してもら

うことにしています。

今はもう40年、それぞれがそういう

心でつとめてくれるようになり、大変

有難いと思っています。

・かぐらづとめに学ぶ一手一つ

一手一つということですが、これは、本部のかぐらづとめなら真柱様のお心にしつかり皆が沿うことだと思ひます。

元の理のお話しを思案しながらかぐらづとめの様子を想像したらよく分かりますが、十人おられる先生でくにと二たち・をむたり様の尻尾に繋がれて

いる先生とそうでない先生とおられる。くにと二たち・をむたり、この神様



は親神様です。

いざなぎのみこと・いざなみのみこと様は、神様が泥海中を見澄ましてお引き寄せになり、その一条心を見澄まして道具としてお使いになっている。親神様のお心にそのまま一条心に沿うておられるから、尻尾に繋がっていません。

くにさづちと月よみさんは、親神様が食べてその心根を味わい、そして、いざなぎ・いざなみのみこと様の中へ仕込まれていますから、一体化して、これは括らなくてもよい。

後は皆、道具ですから、それぞれ特徴があり、勝手な動きをされては困るので、尻尾で全部繋がっています。

そうして、くにとこたちをむたりのみこと様に一体化して、一手一つになつておつとめをつとめる。

しかし、その役割は、皆、それぞれの定められたお役をつとめておられるので、皆、お手が違います。皆、お手が違うが、その姿は親神様・教祖に一つに溶け込んで、皆が一手一つに結びついておつとめをつとめる姿で、それを一手一つの姿と、私たちは教えられません。

おつとめをつとめるときに、誰もが

その心で、そうして一手一つになつてつとめるということ、これが大事なことだと思いません。

◎たすけ心を持ってつとめる

おつとめはたすけづとめですから、おたすけの心を持ってつとめることだと思いません。

おたすけの心で御用をつとめる、これが大事なことだと思いません。

ある教会長が、脳幹に近い所が破裂して一刻を争う状態になったので、教会でも、一生懸命、皆、心を揃えてお願いづとめをし、理立てもしました。

手術当夜は峠を越して命長らえさしてもらいましたが、意識が戻らないまま寝ています。

出血しているのが言語を司っている部位に近い場所なので、意識は戻つても言葉も喋れない、失語症になるのではないかと医者に言われました。

何か、本人が元気なときによく話していた言葉とか歌とかがないか、本人の脳を刺激するようなことを聞かせたらと思うという医者の話でしたので、即座に「みかぐらうたや」と私は思い、真柱様のCDを持って行き、傍の患者に配慮してイヤホンで本人に聞

かせました。

すると、意識があるとかいう状態ではありませんが、わずかに唇が動く様な気配を感じました。「これはたすかる」と私は思いました。

みかぐらうたを聞かせている内に、無意識の内に本人がみかぐらうたを一生懸命唱えています、声は出ません。

これで、頭が刺激され、やがて目を覚ましました。それで、みかぐらうたを聞かせながら、「あいうえお」から発音そのものの発声を一から教えていくような、赤子に教えるが如くに言葉の反復練習を何遍も何遍もしながらする内に言葉が喋れるようになりました。

これは、おつとめということだと思いますが、みかぐらうたのお陰、それを唱えているお陰でたすかったと思えます。

現在、右半身不随ですが、言葉も喋れるようになり、自分で祭文を上げて教会長としてのつとめを果たしてくるようになりました。右手は利きませんが、工夫して拍子木を持ち、朝夕のおつとめもつとめてくれる。頭も判断そのものは何も狂っていない。身体障害者ではありますが、それ用に改造し

た車を自分で運転しておぢばがえりもし、そんな素晴らしい御守護をいただいて教会長としてのつとめを今も果たしてくれています。

真心を込めて神様にお凭れし、そして、神様にお働きいただくだけの真実をもって、真心を繋ぎながらおつとめをさしてもらう中に、鮮やかな御守護を頂戴しました。

●布教に求められる日々の心構え

◎真にたすかる道

一方、おつとめとともに、教会として大切な道の御用は、にをいがけ・おたすけと仰います。

にをいがけ・おたすけは、何よりも親神様の思召に叶うご恩報じの道であり、にをいがけ・おたすけは、人のためにしているのではなく、結局は、自分が真にたすかる道、我が事として教えられていることです。

このおたすけの手立てとして私たちに渡されているのがおさづけの理、これをしっかり使いながら、にをいがけ・おたすけに出たいと思えます。

にをいが掛かるのも、「俺がたすけた」のではなく、神様が働いてたすかつたということ、これをしっかり心に治

めなければなりません。

◎**周囲に心を配る**

**自分ならではのおたすけ**

真柱様は、自分たちの身の回りにおたすけを必要としている人がたくさんあっても、自分がその心配りをしていなければそのことを気付かない。回りにしつかり心を配り、声掛けするようにと仰います。

身の回りにいろんな人がいますが、おたすけには、それぞれ決まった形があるのではなく、その心さえあつたら誰にでもできる、自分ならではのおたすけということがあると思います。

仰せになるのは、出来る者がすればよいというのではなく、おふぼく皆一人ひとりが、自分の出来るおたすけ、自分ならではのおたすけを心掛けてもらいたい、皆が一手一つに心を揃えて教祖にお喜びいただけるよう、成人した姿をご覧いただけるよう、つとめてもらいたいということです。

心さえあれば、誰にでもおたすけは出来る、教祖年祭活動の旬に、一人ひとりのよふぼくが、自分に出来る、自分だから出来るおたすけにつとめてもらいたいと仰います。

うちの部内の教会長の話しですが、汽車で移動中に、子どもがむずがって親を手こずらせているので、たまたま持つていた折り紙を折ってあげ、機嫌を直して楽しく旅をできるようになつたということで、記念写真を撮りました。その写真を送るために住所・名前を聞き、後刻、その家を訪ね、天理教の教会長なのでおうちの幸せを神様に祈らせてもらいたいと、おぢばの方を向いて用意してあつた祭文を上げ、座りづとめをつとめた。

考えてみれば、泣きじゃくる子を宥め賺そうとして折り紙を折ってあげ、子どもと仲良くなり、親と話しをできるようになつたことが始まりで、親子でよふぼくになり、子どもはTLI(天理教語学院)を出て、毎月、布教所の講社祭をするところまでご守護いただいた。これは台湾での話しです。

構えて、この人に布教しようと思うと、なかなか話しができていくものですが、きっかけは大したことない、折り紙ひとつですが、その心があれば、誰でもができる、まだ、そうした糸口を神様は用意されていると思います。

しかし、いろんなおたすけのきっかけがあつても、自分がその気にならな

い、回りに対する心配りをしていなかったら、それに気付かないということだと思えます。

事構えて「布教」ということを考えないにしても、何かおたすけすることはないかと、常に、回りに心を配っていると、そうした機会をいろんなところで見出せる、また、神様は用意されていると思います。

教祖30年祭を打ち出される時の関連のおさしづですが、

にをいの事早いほうがよい。急いでやってくれ。急いでやってくれにやならん。急いでやっても良い加減になる。残らずく遠い所、悠つくりして居ては遅れる。この人ににをいを掛けんならんと思えば、道の辻で会うても掛けてくれ。これからこれが仕事や。

(明40・4・7)

と仰せになっています。

自分のできる、自分だからできるに、をいがけ・おたすけ、常にその心を持ち続けて回りに心配りをさせてもらうことがいかに大切かということに気がきます。

御守護いただいた話しばかりではなく、失敗談もあります。

やはり、神様に働いてもらう自分のつとめ方、このことを思わずにはおられません。

◎**神様にお働きたいだけの真実**

10年前、部内の教会長が舌ガンに罹りました。

舌の根元3分の1ほどを切除し、自分の太ももの内側の皮を切り取って舌の根元の形に造形して移植しました。

舌にはいろんな働きがありますが、食べた物を味わう味覚は舌の先にあるので、根元の方は別に関係ない。物を喋る動き、あるいは、食べた物を順次、喉の奥に送り込んでいく蠕動運動についても、これがちゃんとその働きをしているといえます。不思議ですね。

それで喜んでいると、年末になつてリンパ節へ転移したと、おたすけを願つてきました。

手術も、これ以上のことは出来ないところまでしていますから、この上は神様のお働きを願うしかない、手術の費用を丸々御供して、ひとつ、しつかり神様にお縋りしようとして、おさづけを取り次ぎました。

三日三夜のお願いをしましたが、不思議にガンが消えました。

丸々10年経った今も、元気に教会長としての御用をつとめ、教祖130年祭に向けての活動で、一生懸命、つとめ働いてくれています。

神様にお働きいただく、神様の御守護を戴いてのことですから、それぞれに何をもって神様にお働きいただくか、神様の御守護を頂戴できる真実、受け取っていただく真実は何かということ、当会長と話しながら、手術代を丸々御供して、手術はせずに、手術をする以上の御守護をいただきました。

### ◎日々の理ということ

大切なことは、手術をして御守護をいただいたとしても、元々、健康なときの身体に戻るのではなく、それに近い状態に戻るかも知れませんが、そうではない。なれば、そんな身上・事情を知らされなくても、親神様のご守護にしっかりとお礼申し上げて、日々、報恩の気持ちでしっかりとすけ、一条の御用に勤しませてもらおうということが大事ではないか。

尽した理は将来の理に治まる。どんな大きいものでも、たゞ心だけではどうもならん。道のため尽し

果たした理は、難儀不自由という理は無い。(明31・10・31)

と仰せになります。が、よぶべくとして、やはり、日々の与わりを喜んで受け止め、その与わりに対して感謝の心を持って、その理を親神様に御礼申し上げ、心を繋ぐことが、親神様にお働きいただく理になると思います。

日々の理ということ。常日頃からこうして元気に過ごしていることに対する親神様への感謝の気持ち、お礼の気持ち、その報恩の気持ちをどう繋ぐかということ、これが、本当に神様にお働きいただく理になるということだと思います。まさかのときには、その日々の理をもって、神様が如何様にも働かれるということなんです。

### ◎苦勞を求め、成人の努力を

大切な道の通り方の中に、おつとめをつとめること、にをいがけ、おたすけ、布教をすること、そして、何よりも親神様のお働きを頂戴するために、私たち自身がしっかりと神様に誠実を運び、値をもって、神様の御守護を頂戴する通り方が大切だと思えます。特におつとめ、ということなんです。何も努力せずして御守護はありません。

ん。

成人とはをやの思いに近づくこと。また、教祖の年祭活動は自分たちの成人した姿を教祖にご覧いただく一つの仕切りだとも教えられますが、何をもち成人した姿というのか、自分たち自身、普段出来ないこと、しかも、その理の重いことからこれをしっかりとめて、そして苦勞させてもらう、その苦勞の中に親神様にお受取りいただける成人の姿があり、また、御守護の姿が見えてくる、このように思えます。

日々の理をしっかりと繋がせてもらうということ、私は、これが親神様にお働きいただく元になるということをおたすけにはおれませんが、

おたすけに行くと、「手術代を御供すると言うがそんなお金は何処にもない。」とよく言われますが、「御守護いただいたら、それだけの働きをすることを神様にお誓いしなさい。」と話します。

出来ること、自分が計算尽くで出来ることをやるのは何も難しくありませんが、自分の能力を遥かに超えたことであっても、神様にお凭れしお頼りして、そのお働き・御守護をいただい

いく道というのは、私は、信仰の道だと思えます。

そういう意味で、130年祭の活動は、普段出来ない、会長さん・理の親から言われてなかなか素直にハイと聞けなかったことでもしっかりと自分でそれを受け止めて苦勞をさせてもらい、何とかそれを御守護いただこうと苦勞をする中に成人の道があると思います。

『諭達第三号』では、自分の出来る、自分ならではのおたすけを心掛けてほしいと仰っていますが、この「たすけ」というのがなかなか実は出来にくいことだと思えます。

しかし、それを出来る者がやるだけではなく、お互いに励まし合い勇め合せて、皆よぶべく一人ひとりが、おたすけに——自分が出来るおたすけをしようというのをやの思いですから、その思召に応える——努力をお互いにしっかりとしたい。

1年目・2年目の活動を振り返ってみて定めた通りに御守護いただけ人は、また、更にその上を御守護いただけるように頑張らしてもらい、おたすけの上で苦勞させてもらう。

今まで定めていたが、なかなか御守護いただけなかった人は、改めて定め



直しをしてその遅れを取り戻せるようにしっかりとめ励ませてもらう。お互いにその心でこの一年、しっかりとここを振り絞って、1月26日には、教祖にここまで頑張りましたと言えるように、最後の活動を仕上げたいと思います。

《以上要約》

### 教会長講習会開催

2・26〜27

布教部

布教部(田中隆之部長)では2月26日から27日にかけて「立教178年教会長講習会」を話所を会場に開催、103人が参加しました。教祖130年祭年祭活動の3年目、仕上げの年を迎えた本年。「さあおたすけ 祈る、動く、つなぐ」を年祭活動スローガンとして、一年ごとの実行目標を掲げ、実践につながる具体的な活動例を記載した『成人目標』を通して実践の積み重ねに励んできました。仕上げの本年は、その積み重ねの成果を御守護頂こうと、実行目標も具体的な内容になっています。

活動の先頭に立って、お預かりするそれぞれの教会の旗振り役を担う教会



「精神障害」「認知症」「里親制度」の中から

参加者が選んだテーマについて学んだ

長の、更なる研鑽の場として教会長講習会は位置づけられると思います。今回の教会長講習会は今までの講習会とは趣を変えての開催となりました。現代社会は医療や科学が飛躍的に進歩しておりますが、だからといって決して病気が減ったり、事情が無くなったりという現状ではありません。逆に、難しい病気が増えたり、解決しにくい事情が多くなっている、いわば医者の手

離れの状態が少なくありません。そうした社会にあって、お道のおたすけが更に大切になってきていると思います。

多様化する現代の難法に立ち向かうに当たって、少しでも多くの知識を身につけると、身につけないのとでは大きな差があります。また、教会によっては現在取り組んでいるおたすけも様々です。個々のニーズに少しでも応えられたらという上から、今回は、「精神障害」「認知症」「里親制度」の3つのテーマを設けて、参加者が選択受講する

分科会形式で専門的な知識を学んで頂きました。各コースとも第一線で活躍する講師に出向して頂き、受講した会長さん方からは非常に勉強になったとの声を多く頂きました。

今回の開催形式を今後も継続していきます、布教部としてもより内容を吟味して、更なる知識の習得を目指していきたいと思えます。

(布教部長 田中隆之)

### 雅楽勉強会開催

3・1 大教会で

雅鶯会

雅鶯会(中島誠治楽長)では、初心者と初級者を対象に雅楽勉強会を3月1日に開催しました。受講者は、終始熱心に取り組み、最後のお供え演奏では、当初の目的である平調・越殿楽を雅に、また、迫力ある演奏を奏することができました。少年会員には、次の目標であるおつとめまなび総会での雅楽奉仕が待っており、各自の練習を望むところです。

参加者は、受講14人とスタッフ7人の計21人でした。



三管揃っての合同練習

# 修養科終了生の声



## 旬を得て

弓ヶ濱分教会 森 川 道 弘  
 昨年11月25日、期待と不安を胸に修養科生活が始まりました。

私は教会の後継者として生まれ天理大学を卒業してからは、雅楽こそ自分の使命であり親神様に喜んで頂けるものと思いその活動を広げてきました。教会のご用と雅楽を主体にしてその合間に仕事やバイトをする生活です。その為、なかなか時間を空けるのが難しかったです。昨々が自教会の創立百周年であった事、そして今年が年祭活動最後の年である事から心を定め、この時期に修養科に來させて頂く事が出来ました。

「この時期は人が少ないからもしかしたら一人かもしれない。」と何人かに言われましたが、いざ来てみると私を含め男性4人、女性1人の計5人。この時期にしては多いという事でそれぞれに個性があり、楽しく仲良くなる

事が出来ました。5人だと朝夕のおつとめも休めなく、交替でつとめる事が出来たので本当に丁度良い人数でした。

修養科では、1番組係の役目を頂きクラスのお世話をさせて頂きました。朝みんなより早く修養科へ行ったり、帰りが遅くなったり、クラスがまとまらずに大変な事もありましたが、教養掛の先生やみんなの支えがあつてつとめ終える事が出来ました。

この時期の修養科は年末年始の特別ひのきしんがあり、鏡餅のお供えひのきしんやお鏡開きひのきしんなども出来ずし、ご本部の元旦祭にも参拝でき本当に有難い時期に來させて頂いたと思います。朝も早くなく寒ささえ凌げば楽しいので、修養科へ行くのはこの時期がおススメです。

組係の役目を通してそうですが、修養科生活では本当に色々な事も見させて頂き、また考える事が出来ました。人に対する接し方や自分の言動、心遣い、お道に対しての姿勢や通り方など改めて気付かされる事ばかりでした。教会に帰ってからは、ほぼ今まで通りの生活に戻りますが、おちばでの3ヶ月間の生活を通して学んだ事や体験

した事を糧として、これからの生活により充実したものにし親神様、教祖にお喜び頂けるよふぼくになれる様に、をいがけ・おたすけに励み教祖130年祭を喜び心で迎えさせて頂きたいと思えます。最後になりましたが、教養掛主任の山田先生、そして助員の先生方また詰所の先生方に御礼申し上げます。

## 神にもたれて

多古浦分教会 田 中 道 徳

今回、仕事のことで悩み、修養科に入らせて頂きました。思い切り泣き、笑った3ヶ月間、本当にたくさんのことを学ぶことができました。修養科は世間の学校とは違う、心の勉強をする場所だと聞いていましたが、今になって「本当にそうだったなあ」と実感しています。

周囲の人の言葉、行動など全てが不足に感じていた1ヶ月目。おちばで過ごし、教理を学び、悩み続けた末に自分の辛さ、今回の事情が自分の心のほこりが原因だと気付くことができました。また、修養科に來た過程やおさづけの御守護を通して親神様の存在を実

感することができました。その後は、毎日がとても楽しく、幸せを実感する日々でした。5人の仲間、教養の先生方を始め、本当に楽しいメンバーと共に修養科を通して頂けて心から良かったと思っています。3ヶ月間で学んだことをこれからの人生に活かせるように精進して参ります。

最後になりましたが、今回の修養科にあたり、仕事のことで相談、援助をして下さった職場の上司や事務の方々、相談にのって下さった多古浦分教会の会長、奥様、修養科中に僕たち修養科生のために様々な面でご厚意頂いた教養掛。修養科の諸先生方、ひのきしんの方々、そして、884期の仲間達を始め本当にたくさんの方々にお世話になり、無事通らせて頂きました。心より御礼申し上げます。

## しーる

甲井分教会 為 平 寛

私は自教会(甲井)の会長様より、前会長が教養に行かれるので、修養科に出るよう10月の秋季大祭後に云われたのですが、約百日の日程は永過ぎると思いましたが、前会長の弟も出るとの



事で決心しました。

弟さんは初めてですが、私は今回3回目の修養科で、軽い気持ちで出ましたが、自分で考える程甘くはありませんでした。1回目の修養科は、若い時で人数も多く、2回目も人数が大勢だったのでそれなりに、なんとなく終わり、修了したと思います。

884期、今回は5人だけの修養科生ですから、教養の先生2人に厳しく仕込まれ、おてふりも鳴物も上手に出来ないうれしい自分が情けなく、修養科というレールに乗れなくて苦しみました。やめて帰ろうかとも思った事が有りますが、帰って馬鹿にされるより辛抱したほうが良いと思って過ごしている内、段々楽しく自分の思うレールに乗ることが出来ました。それもこれも教養の先生、4人の修養科生のおかげです。

もともと前立腺肥大の身上が有るのですが、たびたびおさづけを取り次いで頂き、だいぶ良くなって感謝しています。教養の先生から、十柱の神様の月よみのみこと様のお話で、御守護頂くには、何事も万事についてつなぐ心が大事と諭され、自教会には、今まで以上につないで通らせて頂こうと思っています。そして年祭へ向かって夫婦で頑張らせて頂きます。

## 感謝

稲倉分教会 頼 多美子

教祖130祭に向かって三年千日中の年、自教会では、別席者、修養科生を一人でも多く御守護頂きたいと、会長様よりお話を頂き、三年千日仕上げの年の通り方を考えさせて頂き、私も停年の歳を迎え、常々修養科に行かせて頂きたいと思っていましたので、どうせ行かせて頂くならこの旬に、会長様にも喜んで頂ける時、私も成人の為、喜んで行ける時と思いい2月から3ヶ月間、希望と喜びの中、修養科に入学いたしました。

年末には、詰所での御供え用の5升餅の餅つき、炊本でお節会用の水菜洗いとびつくりする様な量に感動し、元旦祭には、かぐらづとめを身近な所から拝する事が出来たことにも感動、お節会の餅運び、餅焼と驚くばかりの出来事の中、かんろうだいのお布巾洗い、お墓地のひのきしんと、この時期だけに、体験出来る事と、喜びと感謝で一杯です。

又、詰所では、教養の先生、多くの方々に、大切にされながら、楽しく、時には、厳しく仕込んで頂き、喜び勇

んで日々通らせて頂き、感謝々の連続です。人を喜ばす心、相手を認める感謝の出来る心遣いを学ばせて頂いた様に思います。先生方の大きい心、やさしい心遣いに感動した心を成人の為に忘れず、3月1日より頑張ろうと思っています。

そして良き4人の仲間と過ごした修養科生活、素晴らしい3ヶ月、感謝の気持ちで一杯です。又、送り出してくれた主人にも感謝です。帰りましたら、今迄以上に大事にしようと思っていま

## 感謝・感激

甲井分教会 山田 要

教祖年祭の仕上げの年、この旬におぢばで過ごさせて頂き感激致しています。長い会社勤めだったのでなかなか修養科への思いはあっても今日まで出る事が出来ませんでした。確か三日講習全日程は笠岡では一番だったと思います。その時、大教会長様より必ず修養科に出る様勧め頂いたのを気にしていま

した。丁度今回前会長である兄が教養掛に行くので、お前も修養科に行くようお話し頂き、即決断し返事をさせて

頂きました。

去年11月25日からの1週間はとても長く感じ、あまり体調も良くなかったので辛いなど思いながらも10日過ぎ、20日過ぎた頃から段取りも分かりはじめ気分も楽になりました。少しずつ頑張ろうと気持ちも変わってきて68歳の今日まで出られなかった事を残念に思いました、若い人がどんどん進むのが覚える事も習う事もついてゆくのがやつとで不足にも思う事がありました。が、4人の修養科生が面倒も見てくれ和気藹々と3ヶ月を無事終える事が出来ました。修養科で習った事、詰所でのひのきしん又、教養掛の先生方に仕込んで頂いた事、4人の修養科生から学んだ事本当に有難い3ヶ月でした。

教祖年祭の仕上げの年に少しでも成人させて頂きました事への感謝、そして日々の通り方を変えさせて頂き教会で生まれ育ちながらも一信者並みの事しか出来なかった自分を改めて反省し、教会で役に立てるようぼくに成人させて頂こうと思っています。

教養掛の先生方、また詰所の先生方、修養科生の皆様、ひのきしんの方々お世話になり感謝致しております。ありがとうございました。

## こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていまし  
たので転載いたします。(敬称略)

## ▼『天理時報』

▽3月8日付「時報歌壇」

・芦品◎ 金谷眞佐代さん

教祖のおひざもとにて挙式せし

娘の姿にうれし涙が

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

雨の日は炬燵こたつに入り編みつつけ

主人の帽子やつと仕上がる

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

島々を巡り訪ねし灯台の

なだりに群れて水仙の咲く

・福満◎ 福島悦子さん

声色もやわらかにして曾孫ひい孫と

チヨチチヨチバーをひすがら交す

## ▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)



## &lt; 布 教 部 &gt;

## ○ひのきしんスクール

テーマ がん患者とその家族への寄り添い

期 間 4月26日(日)・27日(月)

会 場 おやさとやかた南右第2棟3階

受講御供 1,500円

申込〆切 4月15日(水)

・詳細は布教月報をご覧ください。

## &lt; 少 年 会 &gt;

## ○少年会実技指導者研修会

期 日 5月25日(月) なりもの練習に役立つリトミックコース

6月25日(木) おとまり会に役立つゲームコース

8月25日(火) パネルシアターコース

9月25日(金) ペープサートBOXコース

受 付 9時30分～10時

解 散 16時30分頃

会 場 おやさとやかた東右第4棟

受講費 1,000円(昼食代を含む)

申込み 笠岡団へお申し込みください

・複数のコースを受講できます。子供連れでの受講はできません。

## ○縦の伝道講習会

期 日 5月21日(木) 祭典講話として

講 師 此花大教会長 田邊大治先生

## ●第9回大教会長杯親睦大スポーツ大会開催

大教会長様から「笠岡内でブロックを越えた親睦を深める会を開いて貰いたい」という思いで始まったこの大会も、今年で9回目を迎えます。

昨年は8回目にして初めて天候を気にしないで大会を初めから最後まで遂行することが出来ました。

今年は5月24日(日)に行います。場所・大会日程などについての詳細は4月号の「かさおか」に掲載致します。

今年もそれぞれブロック対抗の試合を親睦で行いたいと思いますので、是非周りの人たちに声を掛けてより沢山のひとと親睦を深める大会にしたいと思いますので宜しくお願いします。

今年も、多くの方々が参加出来るよう、1チームに会長さん、50歳以上の方、女性の方、少年会員も必ず入るようになっています。体力に自信のある方も無い方も奮ってご参加下さい。

親睦スポーツ大会委員会

## 立教178年 定期巡教表

教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員
廣町	2月13日	上原繁道	香地華	2月9日	門脇元教	大江橋	2月5日	上原志郎
福廣	2月7日	武内正美	真金	2月11日	佐藤道孝	品治	3月7日	谷内伸自
福勇	2月11日	大教会長様	稲倉	3月13日	上原繁道	久福	3月8日	中村道德
福芦	2月9日	大教会奥様	稲瀬	2月5日	門脇元教	久津	3月9日	中村道德
福満	2月8日	吉岡 壽	稲富士	3月15日	吉岡 壽	呉福	2月5日	吉岡誠一郎
福岩	2月12日	大教会奥様	稲讚	3月10日	吉岡 壽	鶴南	2月8日	吉岡誠一郎
西村	2月10日	門脇元教	門司港	3月12日	上原繁道	鶴真	3月10日	吉岡誠一郎
福年	2月7日	中村 剛	大恵山	3月12日	上原志郎	川島郷	3月10日	武内正美
引野	2月6日	門脇元教	東水島	2月10日	中島誠治	作備	3月6日	今川昌彦
福昭	2月11日	上原繁道	高児島	2月5日	佐藤道孝	輝華	3月13日	吉岡 壽
福春	3月5日	武内正美	高丸	2月6日	大教会奥様	錦ヶ原	2月3日	上原繁道
福中	2月12日	武内正美	出雲	2月11日	吉岡誠一郎	行滕	2月11日	中村 剛
福富士	2月10日	森本忠平	瑞雲	2月6日	岡崎真一	真府	2月9日	杉原博之
福東	2月9日	森本忠平	海潮川	2月8日	岡崎真一	吉舎	3月4日	谷内伸自
東福山	2月6日	中島誠治	錦洋	2月14日	大教会長様	清嶽	2月5日	中村道德
福南	3月13日	中村 剛	米府	2月15日	大教会長様	上小畠	2月10日	田中隆之
福順	2月11日	中村邦義	弓ヶ濱	2月8日	上原志郎	木津和	3月6日	三島 涉
福節	3月8日	吉岡 壽	西伯	2月9日	上原志郎	國須	2月7日	田中隆之
福備	2月3日	中島誠治	米美	2月5日	杉原博之	上吉野	2月12日	佐藤道孝
福輝	3月13日	岡崎真一	伯仙	2月10日	上原志郎	上備	2月8日	三島 涉
坪生	2月5日	吉岡 壽	照雲	2月6日	杉原博之	河佐	3月4日	中村 剛
八尋	2月10日	杉原博之	松都	2月7日	岡崎真一	上川邊	2月12日	門脇元教
深安	3月6日	谷内伸自	樺島	4月3日	岡崎真一	甲井	3月6日	大教会奥様
笠尋	3月3日	森本忠平	新輝豊	3月3日	谷内伸自	上父	2月7日	中島誠治
芦品	3月13日	大教会奥様	亀田山	3月12日	大教会長様	阿木行	2月2日	三島 涉
安那	2月8日	中村邦義	出雲川津	2月10日	吉岡誠一郎	宇津戸	2月5日	中村 剛
芦田川	2月3日	今川昌彦	天場山	2月8日	今川昌彦	河面	2月8日	上原繁道
三郡	3月10日	田中隆之	簸ノ川	2月10日	今川昌彦	府世原	3月12日	大教会奥様
芦常	3月5日	大教会長様	多古浦	3月13日	大教会長様	神驛	2月5日	田中隆之
芦加茂	2月6日	中村邦義	瑞北	2月9日	今川昌彦	神免	3月8日	武内正美
惠陽	3月14日	田中隆之	雲東	3月11日	大教会長様	葦沼	2月7日	中村道德
陽實	2月12日	森本忠平	神村	2月10日	上原繁道			
御野	3月8日	三島 涉	呉中	2月8日	大教会奥様			



## 二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には 人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいとの思召から日夜を分かたず天然自然のお働きを以て御守護下さると共に 夫々の旬を見定めて身上事情を通して心得違いをお教え下さり陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は「成って来るのが天の理」と常に大難は小難に小難は無難にとお連れ通り下さいます親心の程を感じ取らせて頂き 日々は朝夕に御礼申し上げつつ その親心の程を一人でも多くの人に伝えるべくつとめとさづけを通して にをいがけおたすけにとたすけ 一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は二月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心一杯に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には 三寒四温を繰り返し少しづつ春に近づいているとは言えまだまだ寒さ厳しき中も厭いませず 今日の日を楽しみに六万四千五百四十九枚のおたすけお願ひカードを持ち寄り 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げます 心も一人に声高らかにお歌を唱和する皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月来月と部内巡教をさせて頂いております 年祭活動仕上げの年に当たり部内教会のみならず笠岡に繋がる全よふぼく信者に成人目標の徹底を図り 心定め成果を目指して各々が出来るたすけの実動に邁進させて頂く所存でございます 加えて今月二十六二十七とおちばで教会長講習会を開催させて頂き 心を一つに揃えて教会長が率先して動かさせて頂きたいと存じます

又本日は祭典に引き続き学生層育成者講習会を開催させて頂きます 「子は親の背を見て育つ」と言われますが 今子は親の背を見ずに育っておりますので 「育てにやあ育たん」とお聞かせ頂く通り しつかりと一人ひとりが夫々の持ち場立場を生かして 育てる意識を持って受講させて頂き育ての糧とさせて頂きます

何卒親神様には 旬の理を生かし老いも若きもたすけ 一条に邁進する皆の真実誠の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に親心一杯の自由の御守護を賜り 親心に気付き御恩報じを願う人が弥増して たすけ合いの理が伸び広がり お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早く立て替わりますようお連れ通りの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 大教会だより

### ◎第八八四期修養科

自 立教177年12月1日  
至 立教178年2月27日

#### \*教 養 掛

三ヶ月間 山田 敏 教

(大教会准役員)

甲井分教会前会長

一ヶ月目 村川 和 司

(大江橋分教会長)

二ヶ月目 矢田 哲 一

(八尋分教会長)

三ヶ月目 福島 泰 道

(瑞北分教会長)

#### \*修 了 者

弓ヶ濱 森 川 道 弘

多古浦 田 中 道 徳

甲 井 為 平 寛

稲 倉 頼 多 美 子

甲 井 山 田 要

### ◎教人資格講習会修了者

立教178年3月13日終講

島 根 松 本 光

弥高山 岡 崎 治 喜

大江橋 松 本 武 夫

大江橋 松 本 光 司

立教百七十八年 二月月次祭 祭典役割表

講話		祭主		扨者		役割		区分		地方		おつとめてをどり		笛		ちゃんぽん		拍子木		太鼓		すりがね		小鼓		琴		三味線		胡弓															
学生層育成者講習会		大教会長様		菅尾正治		上原志郎		坐り勤		中村邦義		谷内伸自		吉岡誠一郎		大教会長様		岡本久善		上原繁道		大教会奥様		田中ますみ		門脇郁子		上原浩		上原志郎		菅尾正治		三島渉		森本忠平		中村道徳		虫明好美		今川佐智子		佐藤香苗	
四月講話		賛者		指図方		前 半		後 半		佐藤道孝		杉原博之		佐藤真孝		中村剛		門脇元教		今川昌彦		上原順子		門脇加津		高木孝子		森本忠善		横山逸郎		山野弘実		浅野明教		高木昭祥		岡崎真一		内海安子		谷内美知子		菅尾一美	
吉岡 壽		山野弘実		渡邊隆夫		上原繁道		岡崎真一		内海史郎		中村邦義		中島誠治		田中隆之		武内正美		岡崎豊子		中村初美		武内清明		赤木素志		渡邊隆夫		虫明立生		田林久嗣		上原繁次		森本富美子		横山小智榮		三島照美					

◎教会長資格検定講習会修了者

立教178年3月19日終講  
ひろさと 浅野明 教

◎本部食堂ひのきしん

自 立教178年2月16日  
至 立教178年2月28日  
芳井 山口 晃 治

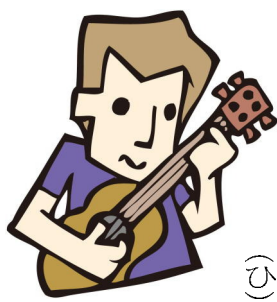
※お詫びと訂正

本年1月21日発行の『かさおか 第54巻第1号』21ページ「第87期修養科募集要項 \*教養掛 3ヶ月間」の項が「三代温生(大教会准役員・雲東分教会長)」となっておりましたが、「三代温生(雲東分教会長)」に訂正します。読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。



老人ホームでギター弾き語りで歌を唄っています。あるとき車椅子に乗ってお婆さんが来られました。車椅子を

押していたのはたぶんお婆さんと思います。その方が私に「この歌を唄ってくださいませんか？」と出された紙に書かれていた歌が「岸壁の母」でした。私は「はい」といつて気軽にギターを弾きながら「母は来ました 今日も来た この岸壁に今日も来た♪……」と歌います。するとそのお婆さんが途中から小さな声で唄い出し少しづつ唄う声も大きくなってきました。その時、お婆さんが「お母さんが唄った！声を出した！」と驚いて喜ぶのです。聞けば家では全く話をせずに声を出さないので今日、ギターの弾き語りがあると知って「お婆さんが好きだった歌を唄ってもらって慰めてあげよう」と思って来たとのことでした。唄の力はすごいな！私も本当に嬉しかった。「労多く」……と思ってもいましたが、そうじゃないと私も感激したのです。親孝心に教祖が微笑んで下さったのでしようか。私はこれからも唄える限りやりますよ。



(ひ)

5	26	玉柏分教会三代会長岡本歳子任命(二代会長岡本章雄 昭和四十八年二月二日出 直)
5	26	就任奉告祭：七月一日
5	26	福東分教会二代会長藤井宣人任命(初代会長藤井綱市辞任)
5	26	就任奉告祭：六月十日
5	26	作備分教会二代会長三宅タケノ任命(初代会会長植田五郎辞任)
5	26	作備分教会を教会本部から笹岡大教会に所属変更
5	26	作備分教会移転
5	26	旧所在地：岡山市南方一丁目二十三番地
5	26	新所在地：岡山県笠岡市笠岡五千七七番地
5	26	鎮座祭：七月四日
5	26	奉告祭：七月五日
5	26	作備分教会恒例祭日変更(毎月二十日・六日)
7	21	杉原博之、大教会青年に任命
7	26	こどもおどろばがえり第一団出発(直轄・玉島・久松 二十八日まで)
7	26	平生分教会神殿建築
7	26	鎮座祭：十二月二日
7	26	奉告祭：十二月三日
7	26	伯仙分教会恒例祭日臨時変更
7	26	昭和四十八年八月に限り十日を六日に変更
7	29	こどもおどろばがえり第二団出発(福山・高屋・神邊 三十一日まで)
8	3	第十一回夏季英語講習会開催(百三十人 七日まで)
8	26	六甲分教会神床位置変更
8	26	帆船分教会移転
8	26	旧所在地：大阪市阿倍野区又の里西丁目十九〜二十二番地
8	26	新所在地：大阪府堺市晴美台一丁目十一番の六
9	26	鎮座祭：十月二十八日
9	26	奉告祭：十月二十九日
9	26	新山邑分教会三代会長三島克己任命(二代会長三島富代辞任)
10	20	大教会承事・陽備分教会三代会長虫明金一 出直(七十八歳)
10	26	笠岡詰所増築
11	26	岩部分教会遷座祭日(十二月十一日)
12	1	鎮座祭：昭和四十九年十月二十八日
12	1	奉告祭：昭和四十九年十月二十九日
12	1	三代会長夫人・上原くに多 本部御用方室御供所掛勤務
12	9	女子青年大会挙行(三〇〇人)